

研究主題「自己の生き方を探究するよさに気付く児童の育成 — 第6学年総合的な学習の時間におけるキャリア教育の視点からの 授業改善 —」

東京都教職員研修センター企画部企画課
小平市立小平第十一小学校 主幹教諭 佐々木 玲子

第1 研究のねらい

「社会人として自立した人を育てる」観点から、「初等中等教育と高等教育との接続の改善について（答申）」（中央教育審議会,1999）では、小学校段階からのキャリア教育の実施の必要性が提言され、その後、様々なキャリア教育推進施策が展開された。小学校学習指導要領（平成29年3月告示）総則では、キャリア教育のより一層の充実が明示された。総合的な学習の時間の目標には、「（前略）よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成」について示されているため、キャリア教育と総合的な学習の時間には密接な関わりがある。

しかし、学校では、キャリア教育も総合的な学習の時間も体験的な活動を重視していることから、体験ありきの単元指導計画になりやすく、児童の探究的な学習を停滞させてしまう懸念がある。また、昨今自分の生活をよりよくすることに興味・関心をもち続けられない児童や自分の将来を思い描いたり自分に必要な目標を立てたりすることが難しい児童が少なくない。児童が、自分の将来を探究的な学習を通して学び、それと実社会・実生活へのつながりを児童自身が実感できる教員の指導・支援について改善の必要性を感じた。

これらの課題意識から、今の子供たちが予測困難な時代を生き抜くために、社会の様相を問わず自分で目標をもち、それに向かって試行錯誤しながら、社会の中で自立して生きていく力を身に付けさせたいと強く感じた。そこで、第6学年総合的な学習の時間「My job, my life」において、社会的・職業的な自立に必要な資質・能力を育てるキャリア教育の視点を生かした授業改善を図り、自己の生き方を探究するよさに気付くのではないかと考えた。

第2 研究仮説

キャリア教育の視点を生かした授業改善を図ることで、児童一人一人が、興味・関心をもち続けながら、これからの社会を生きるために必要な自己の生き方を探究するよさに気付くだろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

小学校学習指導要領やキャリア教育に関連する「初等中等教育と高等教育との接続の改善について（答申）」（中央教育審議会,1999）、「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（中央教育審議会,2011）、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中央教育審議会,2016）、国立教育政策研究所「進路指導・キャリア教育の更なる充実のための実践に役立つ資料」を基に、総合的な学習の時間におけるキャリア教育の意義や先行研究について情

報収集や整理をした。キャリア教育の概要や総合的な学習の時間におけるキャリア教育の意義の理解を深め、研究主題「自己の生き方を探究するよさに気付く」を、「今の自分に必要なことや学びたいことを見付け、解決に向けて行動することの大切さを実感する」と定義した。

2 調査研究（総合的な学習の時間に関する意識調査 7月中旬）

(1) 対象 都内公立小学校 第6学年児童91人、教員22人

(2) 方法 WEBアンケート

(3) 結果

ア 児童対象の調査（図1）

「総合的な学習の時間に学習したことを自分の生活に役立てている。」では、「どちらかといえばしていない」「していない」と回答した否定群は、22%と、他の設問の否定群より多かった。さらに、その質問の回答理由では、否定群回答者から、「生活で思い出すことがない。」「調べて発表するだけで終わっている。」「〇〇は、日常でどのように役立てればよいかわからない。」等が挙げられた。また肯定群回答者からは、肯定的な理由もあったが、「生活に役立つから。」等の漠然とした記述も見られた。

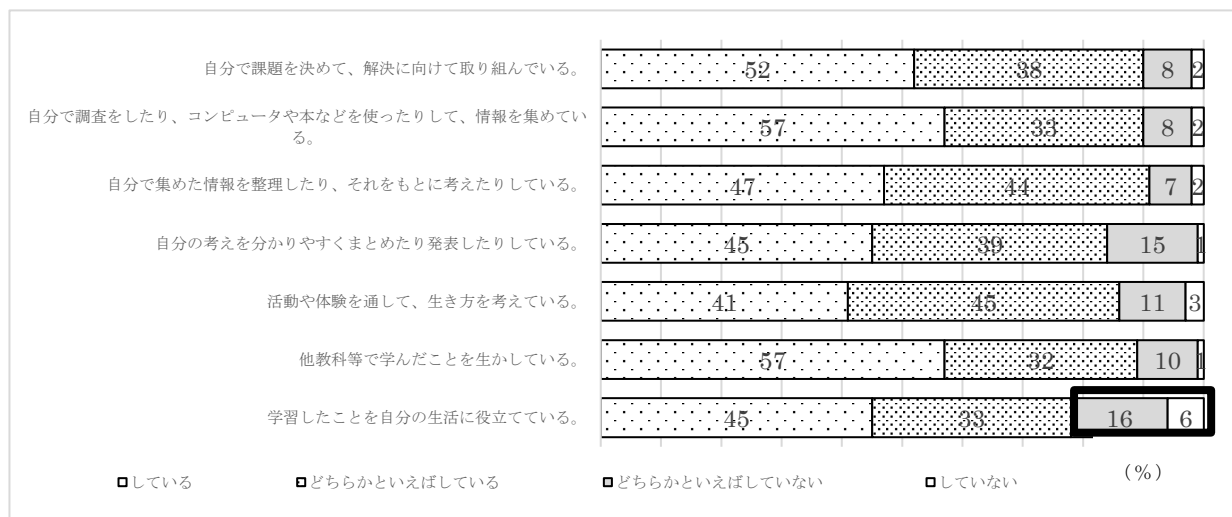


図1 児童の総合的な学習の時間における意識調査（検証授業前）

イ 教員対象の調査（図2）

「児童が、各教科等と総合的な学習の時間の学習とを関連付けることができるようになることを意識して指導している。」と「児童が、総合的な学習の時間に学習したことを、自分の生活に役立てることができるようになることを意識して指導している。」では、否定群が18%存在した。他の設問の否定群より多かった。また、「総合的な学習の時間の指導で、困っていること（任意による自由記述）」では、「教科書や指導書がないことから、やや教師主導になりがちなこと」「自己流で指導している実感があること」「指導者間に差が出てしまうか心配になること」が挙げられた。

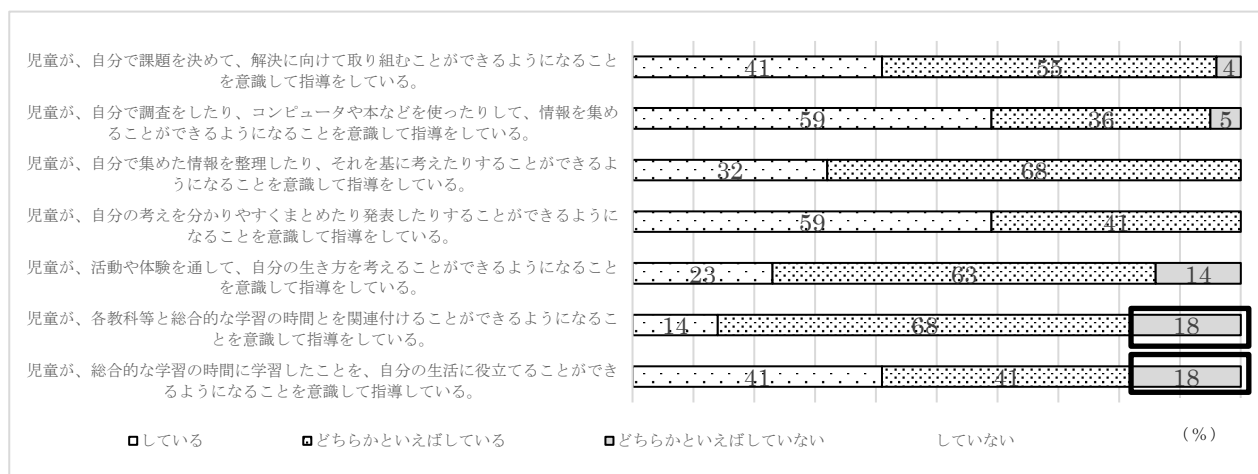


図2 教員の総合的な学習の時間における意識調査（検証授業前）

(4) 考察

総合的な学習の時間に育成する資質・能力は、探究課題の解決を通して、自己の生き方を考えることにつながるものでなければならない。調査研究の結果を踏まえ、児童に、今の学校での学びが、実社会と実生活とつながっていることを認識できるような、キャリア教育の視点を入れた授業改善が必要であることがより明らかになった。

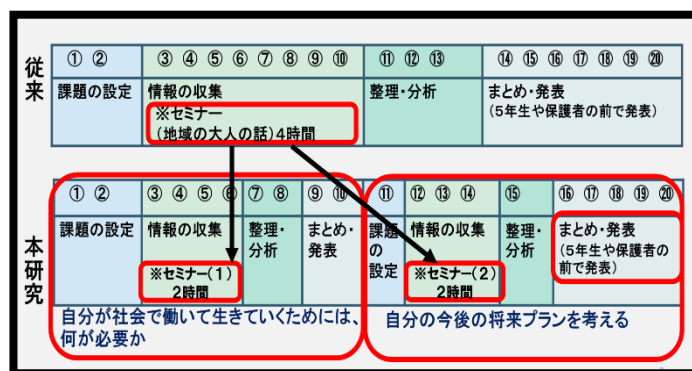
3 授業改善の手だて

(1) セミナー（地域の大人の生き方を学ぶ活動）の改善

セミナーは、教科書には載っていない自分の身近にいる大人の人生話を直接聞くことができる情報の収集の場である。しかし、従来は、自分のこととして関連付けて聞くことが難しい児童がいたこと、自分が希望する大人の話を聞くことができない場合もあったこと、という課題があった。そこで、児童の参加意欲や聞く態度に深まりが出るよう、セミナーの時間や形態等を見直した（表1）。また、セミナーを小単位ごとに位置付けることにより、2回の大きな探究のサイクルが生まれるようにした（図3）。

表1 セミナー実施方法

	従来	本研究
実施時間	第5・6時、第7・8時 (計4時間)	第5・6時、第13・14時 (計4時間)
1回の流れ	講師の話30分、質問10分	講師の話10分、質問10分
児童一人が参加できるセミナー数	4回	8回
参加形態	事前の希望表を基に、教員が割り振った所に参加する。 (人数調整有)	当日、自分で選んで参加する。 (人数調整無)



(2) マイライフプラン (図4)

マイライフプランは、今の自分が考える自分の将来に向けての進み方や実現に向け必要なことが分かるオリジナルの計画書である。単元を通して作成することで、自己の生き方を探究することができる仕組みにした。これは、シート左端の小6の現在から、右端の大人になった自分に向けて、中央の矢印の向きに沿って時系列的に各パーツを図式化、自分の将来やそのために必要な力などを書き込んでいく。どこから書き始めてもよく、作成に迷った際は、手だて(1)のセミナーで大人に聞くことができる。将来を見通すことで、中学校での目標が明確になり、今の自分に必要な学びに気付くことを意図した。

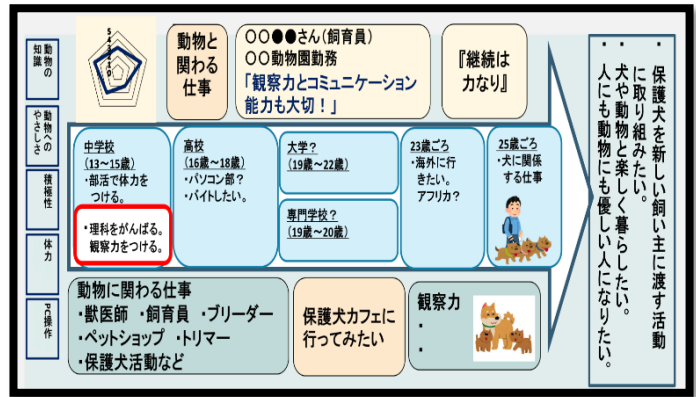


図4 マイライフプラン例

(3) マイレーダーチャート (図5)

マイレーダーチャートは、自己の課題を可視化したものである。マイライフプランの出発点として、単元導入後、自分の将来に必要な力を自分で決めて書き出し、レーダーチャートを作成する。これが自分を見つめる第一歩となる。児童に、単元を通じて、常に自分なりの「将来に必要な力」を意識しながら、マイライフ

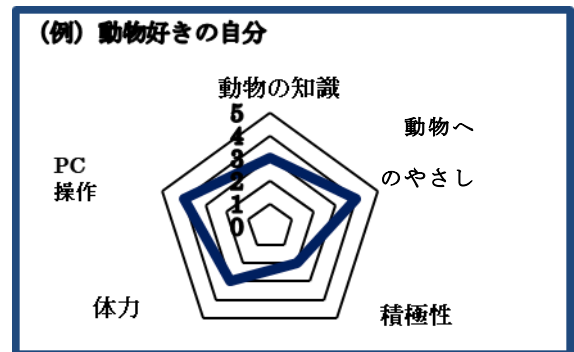


図5 マイレーダーチャート例

プランを作成させることを意図した。また、このマイレーダーチャートを基に、マイライフプラン作成に取り組む過程において、自分にとって必要な情報を得るために、どのセミナーに参加すればよいのかを児童自身が主体的に考え、選択することになる。

4 検証授業 (令和6年9月26日～令和6年12月7日)

(1) 検証授業の概要

ア 学年 第6学年3学級(92人)

イ 単元名 「My job, my life」全20時間

ウ 目標 自分の将来に目を向け、様々な人の生き方(働き方や暮らし方、考え方)を知る活動を通して、自分の将来に向けて必要なことを調べたり、まとめたりし、自分の生き方について考えることができるようにする。

(2) 検証授業分析

ア 検証授業後の意識調査結果(91名実施)(図6)

「学習したことを生活に役立てている。」では、否定群が実施前22%に対して、実施後17%に減少した。否定群の推移を見ると、否定群に属していた児童のうち、40%(8名)の児童が「役立てている」へ、20%の児童(4名)が、「どちらかといえば役立てている」への変容が見られた。この変容について、本質問の回答理由や第20時の振り返りか

ら、セミナーでの大人の話やマイライフプラン作成が特に効果的であったことや、普段の生活で自分に必要な力を意識するようになった等の記述が見られた。一部を紹介する（表2）。

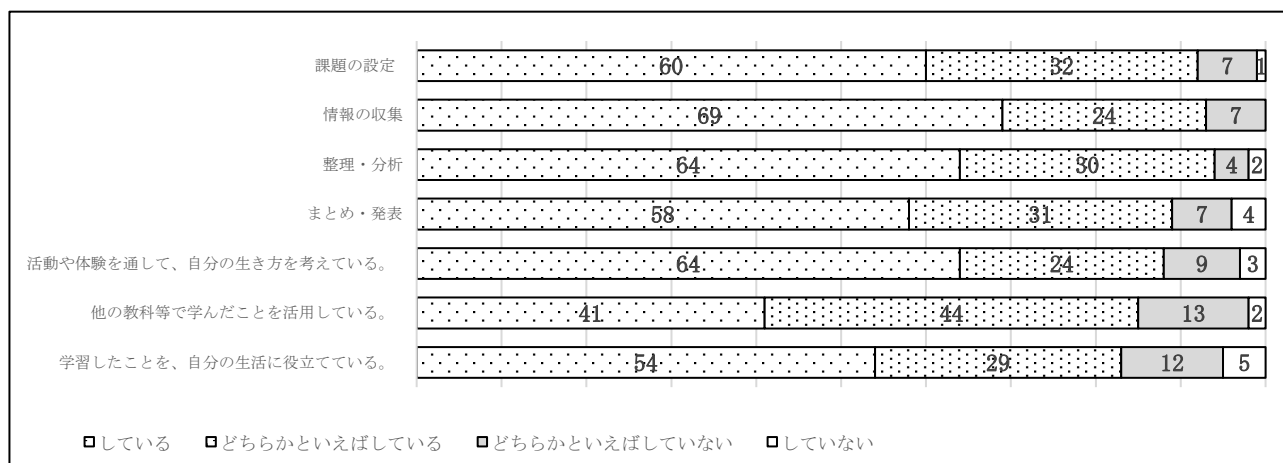


図6 児童の総合的な学習の時間の意識調査（検証授業後）

表2 意識調査で否定群から肯定群へ変容が見られた児童の回答と回答理由

検証前		検証後	
回答	回答理由	回答	回答理由
していない	日光尾瀬プロジェクトは、どのように生活に役立てればいいのかわかりませんでした。	どちらかといえばしている。	今から一番身につけられそうな力を考えて、それがコミュニケーション力で、それを意識していたら話し方や挨拶が自分からできるようになってきたから役立てていると思ったからです。
していない	してないから。	している。	総合の時間に調べたことを実際にやっているから。
どちらかといえばしていない	特に意識したりしていないから。	している。	調べていく中で面白いことや生活に役立つことがわかるから。
どちらかといえばしていない	あまり家での生活に学校で習ったことを使おうと思ってないから。	どちらかといえばしている。	ゲストティーチャーの方の話にあった「まずは自分が幸せにならないと他の人を幸せにすることはできない。」という言葉を目から心にためて意識しているから。

イ 20 時間を通して見えた児童 A の変容

事前調査では肯定群の児童 A は、なりたい職業が見つからない他児童よりも、本学習に前向きにならない様子が授業者は気になり、変容を見取ることにした。小単元 1 では、なりたいものが決まらず、自分が納得できる生き方を探していた。第 2 時のマイレーダーチャート作成では、自分に必要な力を決められず、作成できなかった。セミナー（1）では、事前に自分で質問を考えたり、すすんでメモをとったりする姿が見られたが、マイレーダーチャートやマイライフプラン作成には至らなかった。しかし、第 8 時に、自分から高校を調べると決め、なりたいものはないから選択肢の多い高校（いろいろなことができるという意味）に行くためのマイレーダーチャートを作成した。児童 A は、まずは、中学校卒業後の自分の姿から思い描けそうだと気付いた、と授業者は捉えた。小単元 2 になり、自分で目標を変え、新たなマイレーダーチャートを作成、学習が加速した。セミナー（2）では、マイライフプランに付け加えたい考えや言葉が見つかり、その後作成も進み、第 16 時に完成した。児童 A は、単元終了の第 20 時に、「最初はなりたいものがなかったけど、セミナーで話を聞いて、マイライフプランを書いていたら、したいことがわかってきた気がする！」と振り返っている。児童 A の 20 時間を通して見えた姿は、自分の興味・関心に気付くことで、自分の

将来に必要な力を決め、将来への過程を探究する大切さを実感し、自己の生き方を探究するよさに気付いている姿と捉えられる。

第4 研究の成果

キャリア教育の視点から3つの手だてを講じ、授業改善を図ったことにより、児童が単元を通して、自己の生き方を探究するよさに気付くことができた。そして、これら3つの手だては、それぞれが相互に関連しながら作用したことに効果があったと考える。

第5 今後の課題

意識調査において、検証授業前後とも否定群の児童や検証授業後に否定群に変わった児童も数名存在した。単元を通して、より今の自分を見つめ直したからこそその気付きとも捉えることもできるが、様々な児童の多様な学びに応える指導及び支援を充実させていくことが、今後の課題である。